



第14号  
 編集発行／碧南市  
 哲学たいけん村  
 無我苑  
 所在地／碧南市坂口町3-100  
 〒447-0087：TEL. 0566-41-8522  
 ：FAX. 0566-41-7761

# 哲学の道

久野 昭  
 (広島大学名誉教授)

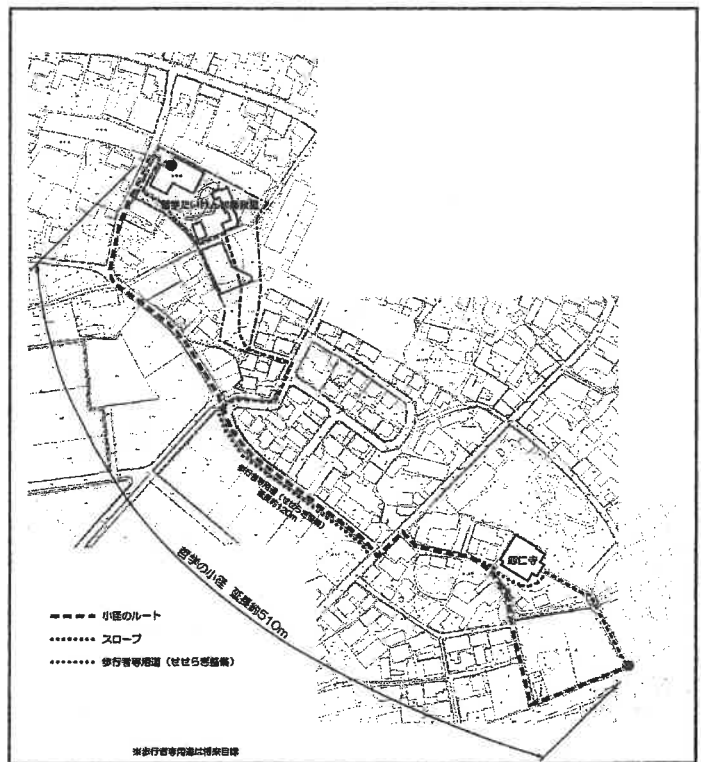


京都の東山山麓に沿って鹿ヶ谷を、琵琶湖疎水の分流が貫いている。この流れの北は銀閣寺橋から南は若王子橋にかけて、およそ二キロの西岸の小

道が、いわゆる「哲学の道」だ。京都大学から東に向かうと、じきに銀閣寺橋に出ることになって、西田幾多郎や田辺元など、京都学派の哲学者たちが思索しつつ散策したことから、小道はこの名で知られるようになった。私が昭和二十四年に京都大学で哲学を専攻しはじめて直接に教えを受けた先生、大島康正、田中美知太郎などの住まいも、この小道のすぐ近くにあった。

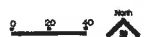
麗らかな春の日和に雪のように散る関雪桜の花片、夏の夜に怪しい軌跡を描いて群れる螢火、秋の夕暮れの静寂のなかで妍を競う紅葉、重く垂れ込めた冬空の下に舞う粉雪、そして人工の疎水とはいえ濁ることのない流れといった自然の風景のなかで、この小道のそぞろ歩きが思索を促したのであって、そもそも哲学のために造られた道ではない。

碧南の哲学たいけん村無我苑と蓮如上人ゆかりの応仁寺とのあいだに、「哲学の小径」を造る計画が検討されている。結構な計画には違いないが、本当は、小径というものは自然にできあがるのが一番いい。せめて、地元の人たちの散策路として固まっていくのがいい。もっともらしい小理屈を捏ね回した上で造るものではないかろう。



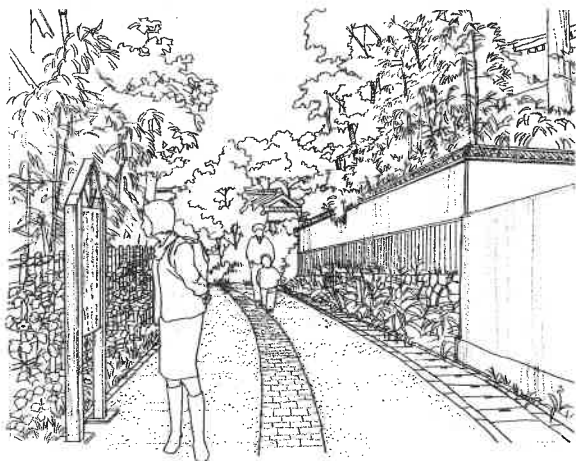
--- 小径のルート  
 ..... スロープ  
 ..... 歩行者専用道 (せせらぎ設備)

※歩行者専用道は提案内容



【哲学の小径ルート図】

必要なのは多くの人に自然に散策してもらえような、ごく自然な道具立てであって、哲学への導入などという大使命を負わせたのでは、小径が可哀想である。まずは、いまのうちに自然の風景を味わいながら、せせこましい日常を離れてのんびり散策できる場を、無我苑と応仁寺とのあいだに確保しておくこと、それでいいのではないか。



【応仁寺付近】



◎「わかりやすいセリフのスーパー歌舞伎」と梅原先生のかかわりが不思議でしたがよくわかりました。  
 (五十八歳 女性)

◎歌舞伎と狂言の楽しみ方を教えてもらった。人生の二つ目の扉が開いた。  
 (五十六歳 男性)

◎梅原先生の深層に分け入った新しい歌舞伎の在り方に共感し、感動を覚えた。  
 (六十三歳 女性)

◎「スーパー狂言」「ムツゴロウ」諷刺台湾の問題を鋭く指摘。おもしろく感じた。  
 (四十八歳 男性)

◎「聴講者の感想」—アンケートより—  
 ◎「スーパー歌舞伎の作者として—」

平成十二年度 新春特別講演会  
 講師 梅原 猛氏 (哲学たいけん村 無我苑名誉村長・哲学者)  
 演題 「猿之助と私」  
 —スーパー歌舞伎の作者として—  
 平成十三年一月二十八日(日)  
 於 碧南市文化会館

平成12年度

はじめての哲学講座

テーマ「哲学として考える、日常の問題」		
講師 中京女子大学講師 加藤 博子 氏		
2月 3日(土)	差別～自己のうちなる強者と弱者	
2月 10日(土)	経済～お金の根源的な意味を問う	
2月 17日(土)	生命～環境でも資源でもない自然	
2月 24日(土)	媒介～メディアの変化に伴う変化	
3月 3日(土)	解釈～心酔して哲学書を読む構え	



《受講者の感想》

◆哲学に興味を持っていても哲学者の著書は難解であるし、なかなか親しむことはできない。今回の講座で日常の問題を哲学者の眼でどのように見て、どのように解釈するか実例をあげて解説していただき大へん興味をかきたてられた。最近のように情報があふれている世の中で、重要な情報を選択する能力、そして思索する習慣をもつと養わなければと痛感した。

◆日常的なことを織りまぜながら、先生が提供して下さるお話の中に、自分にとっては新しい啓示が見られることは、楽しい喜びでした。

本棚のバリエーションも、また一段と格調高くなったよううれいす。じっくりと読み込んでゆくには時間がかかると思いますし、そのうちのどれ位が理解できるかを考えると心もとない限りですが、そのような出会いを与えて頂いたことに、心から感謝します。

平成十二年度  
 後期哲学講座の記録

〈受講者の感想〉

★ことばについては、全く無関心でありましたが、関心を持つきっかけを作るような講座を企画して頂き感謝します。ことばの発生の過程とか、日本語の特徴を外国人の研究者から指摘されるなど興味深いことでした。

テーマ 「ことばの問題」

11月11日(土)	言葉の発生	京都大学大学院教授 小川 侃 氏
11月18日(土)	言葉表現と西行の思想	詩人 角谷道仁 氏
11月25日(土)	日本人の詩的言語	東京大学客員教授 ツバタナ・クリステワ 氏
12月 2日(土)	ロゴスとしてのことば	広島大学名誉教授・国際日本文化研究センター名誉教授 久野 昭 氏

ロゴスという分りにくい言葉を紹介して、いろいろの方面からの幅広い考えを教えて頂いたこともうれしくおもいました。

★ひじょうに奥深いテーマだった。先ず我々は美しい日本語をもっと大事にしなければならぬと感じた。

★言葉の哲学の難しさを思い知らされたが、言葉を実剣に考え、正しい言葉を大切にしなければならぬと思いました。

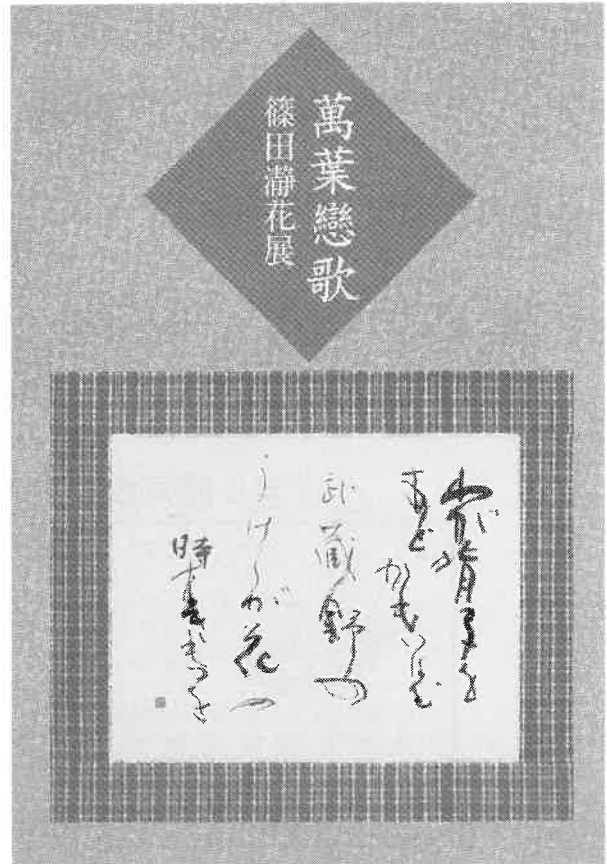


うぐいすの声を聴く会 H12. 4. 30



お茶のいただき方教室 H12. 9～

瞑想回廊第15回企画展示



平成13年1月10日(水)～3月11日(日)

# 平成12年度 実施事業の報告

うぐいすの声を聴く会	4月30日(日)	銘鶯保存会の協力により、研修道場で鶯の鳴き声を楽しむ	入場者 350名
はじめての座禅	9月9日(土)	講師を招いて、座禅を通じて精神統一を図る 講義 講師 林泉寺住職 丹羽康道氏	受講者 15名
お茶のいただき方教室	9月～10月 全6回	初心者対象の茶道教室 講師 文化協会茶道部 安形亮照氏	受講者(延べ) 38名
村民野外研修	10月29日(日)	村民の哲学体験のための野外研修 日本大正村(岐阜県明智町) 和紙のふるさと和紙展示館(小原村)	参加者 35名
茶の湯文化講座	12月10日(日)	演題「千利休の茶具」 講師 東京国立博物館名誉館員 林屋晴三氏	受講者 84名
エンカウンター・グループ	2月16(金) ～18日(日)	集団の中で心と心の出会いを模索 講師 愛知大学教授 木村 易氏ほか	参加者 10名

# お知らせ

## 伊藤証信翁に

### まつわる思い出(座談会)

去る三月二十九日、小雨の降る無我苑  
 研修道場で伊藤証信翁と親交のあった榎  
 原純治郎氏、岡島良平氏、杉浦元氏にお  
 集まりいただき座談会を開きました。生  
 前の翁を知る方々とあつて、なかなか拝  
 聴することのできない貴重なお話がいた  
 だけましたので、次号かわら版で、座談  
 録を掲載していきます。



右から榎原氏、岡島氏、杉浦氏

## 「涛々庵茶会」席主表 (平成13年4月～平成14年3月)

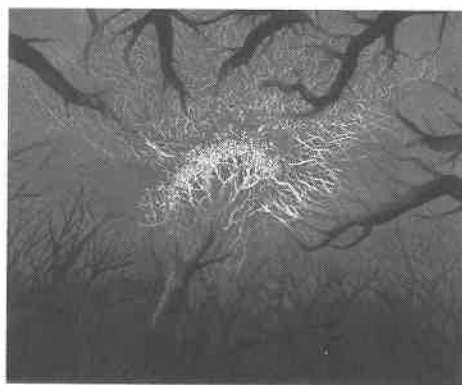
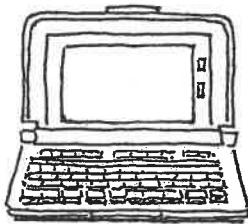
月 日	氏名 (茶名)	流 派	月 日	氏名 (茶名)	流 派
4. 22	磯貝 勝代 (宗代)	裏千家	10. 28	杉浦 伸子 (宗伸)	裏千家
5. 27	文化協会茶道部		11. 25	瀬田みな子 (宗美)	表千家
6. 24	小笠原美美 (宗文)	久田流	12. 16	安形 亮照 (宗照)	裏千家
7. 22	山田 昇 (宗昇)	裏千家	1. 27	高山 恵子 (宗恵)	表千家
8. 26	杉浦 とめ (宗澄)	久田流	2. 24	山崎 瑞枝 (宗瑞)	裏千家
9. 23	小笠原 利 (宗紅)	裏千家	3. 24	小島 和美 (宗美)	裏千家

## 碧南市

哲学たいけん村無我苑の  
 ホームページをご覧ください！

【ホームページ】

<http://www.city.hekinan.aichi.jp/>



青青 1999年

期 間 平成十三年六月十二日(火)～  
 八月十九日(日)  
 内 容 哲学的な絵画作品の展示

第十六回瞑想回廊企画展示  
 テーマ 「すぎとほる生命  
 ～松谷慶子展」

## 編集後記

### 哲学の小径

哲学の小径構想は、蓮如上人ゆかりの寺「応仁寺」と県下最大規模の自然湖沼「油ヶ淵」と、かつて伊藤証信が無我苑の活動の拠点としたえにしで現代に蘇った「哲学たいけん村無我苑」とを結ぶルートで、整備は既存の道を舗装し、道標を施すといったことから段階的に進められる。小径付近の住民、そこをいつも通る人が風景に目を止めて、いいな、良くなつたな、と感じてくれることが期待の一つである。▽道標は案内板の役割にとどめず、歴史的解説、俳句などの作品、哲学的な言葉を表示することを計画。これは、歩きながら「哲学」へ文化へ歴史へ「自然」に触れ、その内の「哲学」について、無我苑で事務を執る者として述べれば、風景を見る外界への視線が、おのずと自分の心の内部にも注いで行くことを「哲学」への導入、と結びつけているような、それとも無我苑に続く「哲学の小径」だからか、などと方針の意図を想像する。▽ゆくゆくは、せせらぎやポケット広場、桃の木の植樹を、と地元の有識者、文化人等で構成される「哲学の小径整備検討会」が基本構想を作成し将来の目標としている。人為的な道ではあるけれど、歩行者の安全性を確保することで安心して歩ける道、歩きたくなる道が完成するのを見守りたい。

(無我苑 大野)